



三光幼稚園だより

7月号

<http://sanko-kg.minato-kyo.ed.jp>

ブログ: <http://sanko-kg.minato-kyo.ed.jp/blog>

Twitter: https://mobile.twitter.com/sanko_kg



令和7年6月30日

港区立三光幼稚園

園長 藤井 未知江

国際理解ウィーク

園長 藤井 未知江

6月23日(月)からの1週間は、幼稚園国際理解ウィークでした。特にそのメインデーである23日(月)には9名のネイティブ・ティーチャーが来園し、子どもたちは身振り手振りや、簡単な会話のやりとりを楽しみながら海外旅行ごっこを楽しみました。帰宅後、その様子や感想をおうちの方に話した子が多かったことと思います。

まず、手作りのパスポートを持ち飛行機に乗ると、(実際は飛行機から見る地上の映像を見ながら、飛行機に乗ったつもりを楽しみました)ネイティブ・ティーチャーの自己紹介がありました。その後、中国、韓国、フィリピン、ロシアの国々を回る設定で、それぞれの国ではネイティブ・ティーチャーが食べ物屋に扮し、子どもたちと英語での会話のやりとりをしながら関わっていました。初めて会ったネイティブ・ティーチャーと、身振り手振りの仕草や会話などのコミュニケーションをとおして、子どもたちは彼らに親しみをもち、ニコニコしながらやりとりを楽しんでいました。食べ物を買ったり食べたりした後は、シンガポールを象徴するマーライオンの周りで、ネイティブ・ティーチャーと一緒に各国の食べ物の話をしたり、海外旅行ごっこの振り返りをしたり、ダンスをしたりしながら、あっという間に時間が過ぎていました。

幼稚園でもこれまで、一人のネイティブ・ティーチャーとともに、学級で好きな遊びと一緒に楽しんだり、ゲームや歌を歌ったり、お弁当を食べるなどの関わりの中でコミュニケーションを図り、英語やその文化に親しんできました。その素地があつてこそ、今回のメインデーの海外旅行ごっこで、子どもたちは様々なネイティブ・ティーチャーとの関わりを楽しむことができたのではないかと考えます。幼少期から様々な国の人々と関わることは、多様な他者の存在と違いを自然に認識していくことにつながります。

国際理解教育の様々な取組が、将来、子どもたちの心に残り、異なる習慣や行動様式をもった様々な国の人と関わり合い、違いを認め合いながらたくましく生き抜いていくことを願ってやみません。



ネイティブ・ティーチャーと会話をしながら、食べ物を選ぶ年中児



ネイティブ・ティーチャーと海外旅行ごっこの振り返りをする年長児



最後にみんなでダンスを楽しむ子どもたち